

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 【学校像】地域に根ざした信頼される学校
- ・生徒の未来を個性豊かな自らの力で創造し続けようとする強い心を持たせる学校。
 - ・他者への思いやりや関わりを大切に、地域社会に貢献できる人材を育成てる学校。
 - ・確かな学力とキャリアクリエイト能力が身につく学校。
- 【育てる生徒像】地域に貢献できる将来性豊かな人材
- ・自らの将来をしっかりとイメージし、失敗を恐れず勇気をもって一步を踏み出すことができる生徒。
 - ・人とのコミュニケーションを大切にし、積極的な他者への働きかけができる生徒。
 - ・自己管理力（克己心）・知的能力を高め、正しい人権感覚を持って問題解決に立ち向かう強さと優しさを備えた生徒。

2 中期的目標

令和9年度を目標に、新たな本校の取組みの3年間を見据えた中期目標とする。

1 学力向上と進路実現のための魅力的な学校づくり

- (1) 生徒の可能性を引き出す教育課程の編成に重点を置き、効果的な情報発信の推進
- ①令和7年度入学生から授業時数を週30時間に改編。授業内容を充実させるとともに、選択科目群の精選と生徒のニーズの応じた教育課程とする。
＊学校教育自己診断（生徒）項目：全般（この学校には、他の学校にない特色がある）の肯定感 令和9年度70%以上の肯定感をめざす。[R6：60.8%]
 - ②2年次に可能な科目選択を広げ、本校の特色でもある「生徒の可能性」を活かした「多様な進路先」につなげる。
＊学校教育自己診断（生徒）項目：教育課程の肯定感平均 令和9年度90%以上の肯定感の維持をめざす。[R6：89.4%]
- (2) 「わかる授業」を踏まえて「確かな学力」の定着への取組み
- ＊学校教育自己診断（生徒）項目：授業の肯定感 令和9年度80%以上の肯定感をめざす。[R6：70.0%]
 - ①全面的な「授業改善」を学校全体で推進する。
ア 工夫された授業と授業中での1人1台端末活用の積極的な推進。
イ 生徒参加型の探究的な学びを全教科・科目で実践する。
ウ 学習評価の改善に向けた、教職員全員による積極的な取組み。
エ 「わかる授業」の実践に向けた「授業力向上チーム」の活発な活動。
 - ②学びのUD（ユニバーサルデザイン）を参考に、「生徒たちの思い」と「教師の思い」に「ずれ」が無い授業の実践と「生きる力」の育成をめざす。
ア 環境づくり・・・意欲や成長を促す言葉かけ、指示の伝え方、ルール作り、掲示等の配慮
イ 人間関係作り・・・共感的な人間関係作りへの配慮
ウ 授業づくり・・・授業の流れ・形態、個別の指導、板書・教材及び教具の工夫、教室の配置等の配慮
- (3) 「ワンランク上の進路実現」に向けた学校全体が進路指導を意識するシステムの構築＊参照 図1
- ①進路指導を「キャリアクリエイト」（生徒一人ひとりの将来を創造する）と位置づける。
 - ②旧進路指導部を「キャリアサポート部」として再編。進学・就職指導係と探究係が多方面から支え、生徒の個性を最大に伸ばせる指導体制を構築する。
 - ③定期考査実施内容の改善や教育産業による学力生活実態調査を活用するとともに、生徒が主体的に自分自身の進路開拓をさせる指導を実践する。
- (4) 令和7年度「学校経営推進費」事業支援対象校となり、「学びのスタイル変容」プロジェクトを3年計画で推進する。
- ①初年度の取組みとして視聴覚教室の改修を手掛け、学校全体のプレゼンテーションの場と一新。モデル授業の開発を探索する。
 - ②3年後の完成年度には、生徒による「総合的な探究の時間」成果報告会を開催するとともに、生徒主体的に学べる深い学びの実践事例集を作成する等の取組みを推進する。

2 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒の育成

- (1) 公共心と規律性を備えた生徒を育てる取組みを重点項目とし、帰属意識の向上及び地域連携・地域貢献における生徒の自己有用感、自己効力感の育成を図る。
- ＊学校教育自己診断（生徒）項目：生徒会活動の肯定感平均 令和9年度85%以上をめざす。[R6：75.5%]
 - ①取組みの重点項目：ア 授業規律 イ 欠席・遅刻指導 ウ 服装・頭髪指導 エ あいさつの励行
 - ②クラス活動の活性化及び、生徒会活動などの自主活動における学校行事の企画・運営を充実させる。
 - ③積極的な部活動への参加と幼、保、小及び中の各学校園や、自治体関係機関、地域商店街などと連携し生徒会活動を通じ地域貢献を推進する。
- (2) 人権教育推進の更なる充実 ＊学校教育自己診断（生徒）項目：人権教育の肯定感平均 90%以上維持する。[R6：89.7%]
- ①取組みの重点項目：ア 障がい者理解 イ 同和問題 ウ 在日外国人問題 エ 拉致被害者問題 オ 人権教育推進委員会組織の更新
- (3) 教育相談、SC、SSW、生徒支援及びいじめ防止対策委員会活動の充実をさせる＊参照 図1
- ①校内分掌を大幅に再編し、生徒指導部に生活指導係と生徒支援係を設置する。＊図1
ア 生活指導面からの気付きをタイムリーに生徒支援につなげる。
 - ②学習支援活動の活性化と的確な情報共有体制の確立
ア 生徒支援（教育相談）委員会及びSSW委員会の位置づけを明確化。
イ 不登校生徒や長期欠席生徒への対応を校内に周知徹底させる等の情報共有体制の確立を図る。また、学年フロアーに「カウンセリング室」を設置する。
 - ③いじめ防止対策委員会の充実した活動
ア いじめの防止・早期発見から対応に至るまでの迅速かつ円滑な組織的対応の徹底を図る。
＊学校教育自己診断（生徒）項目：いじめ対応の肯定感を毎年90%以上維持する。[R4：90.8%、R5：93.4%、R6：93.1%]

3 総合的な探究の時間の効果的な推進

- (1) 総合的な探究の時間を抜本的に見直し生徒のキャリアに直結するような「職業観」を強く持たせる活動内容へ改編する。
- ア 校訓「克己」の志を持った地域社会に貢献できる生徒の育成。
 - イ 自らに厳しくも他者には優しく思いやれる社会人を育成するための資質と能力を養う。
- (2) 国際交流活動の拡充を図る。＊学校教育自己診断（生徒）項目：国際交流の肯定感平均を80%以上にする。[R4：79.2%、R5：64.8%、R6：76.1%]
- ア オーストラリア語学研修を本校単独開催させる。
 - イ 外部機関との連携を深め、国際理解教育の推進を図る。
- (3) 読書活動を通して他者への働きかけ力を高める。
- ア ビブリオバトル等の生徒参加型読書活動を推進し、総合的な探究の時間にも効果的に取り入れる。

4 地域に愛され、信頼される学校改革

- (1) 生活指導・生徒支援の確立。＊学校教育自己診断（生徒）項目：生徒指導の肯定感平均を90%以上にする。[R6：88.3%]
- ア 朝のホームルームを実施し、生徒の健康状態や変容を把握するとともに生活リズム（生活規律）と時間を大切に扱う態度（学習規律）を養わせる。
 - イ 時差登校等による自転車・交通事故ゼロに向けた取組み [R4：68件、R5：52件、R6：41件]
- (2) 学校経営体制の強化
- ア 「学校経営方針」の発信を定期的に行い、校長のリーダーシップのもと全教職員が学校運営に携わる活動を推奨する。
- (3) 開かれた学校づくり
- ア 学校運営協議会において、各委員から積極的に意見収集をするとともに、学校教育活動へ迅速に対応する。
 - イ 中高連携の新規事業として「書写・書道」の出前授業を近隣中学校と連携して行う。
 - ウ 学校HPの更新や広報活動の強化に取り組むと同時に令和8年度入学生向けの制服デザインを改定し、新しい学校のイメージとして位置付ける。

- 5 教員の働き方改革の持続的な継続
- (1) 府立学校において、教職員の長時間勤務の軽減に向けた働き方改革の促進としての取り組み
 - ア 毎週月曜日に設定している全校一斉退庁日及び各部活動で設定しているノークラブデー実施の徹底
 - イ 日頃の業務体制を教職員各自で見直すとともに、安全衛生委員会からの発信など組織的改革に努める。
- (2) 時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定
 - ア アラートメールにより個人への通知とともに、教職員全体へ校内滞在時間超過時間を正確に把握させ時間外勤務の縮減に努めさせる。
＊月の時間外勤務時間 80 時間超の延べ人数[R 4：28 人、R 5：19 人、R 6：6 人 2 月時点]
 - イ 学校閉庁日を週休日等と併せて設定し、教職員が長期に休暇を取れるような工夫をする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 10 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【令和 7 年度の結果と分析について】 [生徒] ・全体的に「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の肯定的な回答が多く、今年度は 80%以上が 23 項目中 19 項目である。 [保護者] ・全体的に「E 判断できない(よくわからない)」を除けば、肯定的な回答が多い。「2 の学校の特色」と「9 の積極的に部活動に参加している」は否定的な回答が多く、改善の必要がある。 ・「1. 学校に行くのが楽しみ」「20 学校からの連絡事項」「22 学校の行事への参加」は「E 判断できない(よくわからない)」の回答が少ないが、その他の項目は一定数あり、生徒を通じての連絡方法の改善が必要である。 [教職員] ・全体的に「E 判断できない(よくわからない)」を除けば、肯定的な回答が多い。特に「1 の情報機器を使用して教え方の工夫をしている」「校長のリーダーシップ」の「A よくあてはまる」の回答が多い。 ・回答数が少ないのが課題であり、今後のアンケートの取り方に工夫が必要である。 【令和 5 年度から令和 7 年度の経年比較による分析と結果について】 [生徒] ・全体的に「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の肯定的な回答が多く、今年度は 80%以上が 23 項目中 19 項目である。 ・昨年度から質問項目を変えているが、おおむね昨年度より「C あまりあてはまらない」と「D まったくあてはまらない」が大幅に減っている。 ・「3. 先生は生徒の意見をよく聞いてくれる」「7. 学習の努力を認めてくれる」「8. 授業わかりやすい」「18. 国際交流」の項目は全体的に A と B の肯定的な割合が増加している。 ・「12. 地域や社会で貢献できる内容の学びがある」の項目は「A よくあてはまる」の割合が減ってきている。検討の余地あり。 ・「17. コースや選択科目は自分の進路に合っている」の項目は A と B の肯定的な割合が大幅に上昇している。 ・「22. 担任の先生以外にも相談することができる先生がいる。」の項目は A と B が上昇している。 [保護者] ・今年度から、「E 判断できない(よくわからない)」の選択項目を設けたので、「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」の肯定的な回答が多い。 ※R 6 年度から質問項目が変更のグラフは「E 判断できない(よくわからない)」を除いたものである。 ・保護者から 70%の回答が寄せられた。確かなデータ収集のための改善を図った。 ・「2. この学校には、他の学校にない特色がある。」「4. 子どもは、考え方に工夫があり、分かりやすく説明してくれている先生が多いと言っている。」の項目は「C あまりあてはまらない」が割合として多く、新しい特色を模索する必要があると思われる。教え方は、生徒からはとても良い結果が出ているが、保護者には伝わっていないようである。 ・「10. 学校では生活規律(遅刻等)や学習規律(授業態度等)などの基本的生活習慣の確立に力を入れている。」「11. 学校の生徒指導方針に共感できる。」については、おおむね共感を得ている。 ・「12. 進路に関する情報は十分に提供されている。」「13. 卒業後の進路について、十分に考える時間や説明がなされた指導を行っている。」については、進路指導に理解を得ているようである。 ・「20. 学校からの連絡事項は適時伝わっている。」については、情報提供ができていると思われる。 ・「22. 学校の行事等に参加したことがある。」については、行事への積極的な参加がうかがわれる。 [教職員] ・今年度は、「E 判断できない(よくわからない)」の選択項目を設けたため単純には比較できないが、おおむね「1～5 授業」「6～7 生徒会」「13	【第 1 回学校運営協議会】 ○令和 7 年度学校経営計画についての説明および各分掌・各学年からの年間計の画説明及び本年度の取組みに対する委員による意見 ・進路支援・学力向上について、大学進学希望者が増加傾向にある中で、「ワンランク上の進路実現」をめざす取り組みや、生徒の進路意識を高める活動の強化が求められた。 ・委員からは、「地域の大学生や OB/OG などの外部人材を活用することで、生徒への学習支援がより効果的に行えるのではないか」との提案があった。これに対しては、財源や人材確保の難しさが課題として挙げられたが、「ちょこスタ」(学力定着を目的とした自習支援)の場において、若手 OB/OG が支援役として関わる可能性があるのではとの意見があった。 ・自転車通学の生徒が多いことから、通学時の交通ルールの指導をより一層徹底するよう意見があった。 ・総合的な探究の時間で利用しているオンライン学習ツールの具体的な活用方法について質問があった。これに対しては、課題の提出や管理を PC で利用してできることの説明があり、効率化が進んでいることの説明があった。 ・学校の魅力発信と地域連携について、委員からは「金岡高校らしさ」を内外に発信する工夫として、ホームページや同窓会との連携を強めるべきという意見があった。特に「生徒に OB/OG の活躍を伝えること」や「駅前の書道展示」などの取り組みを通じて、地域との継続的なつながりを築くことの重要性が強調され、「地域からの信頼を得られる高校づくり」をめざすべきとの意見が出された。 ・部活動・働き方改革について、教職員の勤務時間への配慮について意見があり、部活動の今後の在り方にも言及があった。 ○ 教員の授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議について ・保護者からの学校運営協議会に対する意見は、なかった。 【第 2 回学校運営協議会】 ○令和 7 年度学校経営計画の進捗状況について校長・各分掌・各学年からの説明後の、本年度の取組に対して各委員からの意見 【委員による主な意見等】 ・オープンキャンパス参加の義務化についての効果について聞かれ、実際に大学へ行ったことで高校とは異なった学びがあることや、進路に迷いが生じたという声があったことを伝えた。 ・授業見学により、総合的な探究の時間では、生徒が 1 人 1 台端末を活用し、主体的に取り組んでいる様子がうかがえたとの意見があった。 ・中学生が高校を選択する際には、進路、部活動、学校行事、学校文化、制服などを重視する傾向があるとの説明を資料「令和 7 年度入学生 府立学校の魅力化に向けたアンケート」を用いて行い、来年度の制服リニューアルについても関心が高まるだろうとの見方が示される。 ・最近は「公立に挑戦しつつ、私立も選択肢に入れる」という考え方が一般的になっているという意見があった。 ・自転車通学の安全面では、来年度の道路交通法改正による罰則強化への不安が共有され、具体的な反則金や違反点数の積算など、内容をより詳しく生徒に周知する必要性が委員により指摘された。これに対し、本校では傘さし運転やイヤホン使用の禁止に加えて左側通行の徹底など、段階的に指導を行っていることを説明した。法令の遵守について、当たり前のことを当たり前に守る姿勢を継続して伝えていきたいとの方針も示す。 ・学校の魅力発信については、学校の良さが外部に十分伝わっていないとの意見が寄せられ、さまざまな取り組みが広報に生かしきれていない点が課題として委員より挙げられた。塾関係者が本校を勧めるための情報を得にくい状況も紹介され、地域との連携をより深めながら、外部への発信力を強化する必要性が委員より述べられた。 ○令和 8 年度使用教科書について ・採択一覧表と実物の見本本を見ていただいた。 ○ 教員の授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議について ・保護者からの学校運営協議会に対する意見は、なかった。 【第 3 回学校運営協議会】 ○令和 7 年年度の学校経営計画の達成状況および次年度の設定目標の説明 ・今年度は「探究活動」と「親身な指導」を軸に、生徒の肯定感や進路実績が大きく向上している。1 学期中間考査をなくすことで、生徒・教員の評価に対する考え方が改まるとともに、学校全体の学力指数が上昇し、特に 1 年生においては効果が表われた。また、今年度は難関私立四年制大学合格者数も昨年度を上回っている。生徒指導面では、生徒指導室の設置による「見える化」と全教員による声掛けを徹底し、挨拶や交通マナー、遅刻防止などの生活規律に、生徒・教員ともに意識の改善が見られた。 ○令和 8 年度学校経営計画の目標設定について ・次年度は今年度の成果を継承し、教育活動では、生徒がより主体的に取り組めるよう探究活動のテーマ設定を工夫し、部活動加入率 60%を目標に学校の活性化を図りたい。また、新たに「労働安全管理体制の充実」を掲げ、教職員の長時間勤務削減を行いつつ、

国際交流」「21 校長のリーダーシップ」は改善の傾向がある。 ・回答率が低く回答方法に改善の余地がある。90%以上ほしいところである。 ※R6 年度から質問項目が変更になり参考として載せている。グラフは比較のため「E 判断できない(よくわからない)」を除いたものとなっている。	教育の質の向上をめざす。地域連携においては、近隣の中学校への出前授業（書写）や学校ホームページにおいて中学生向け特設サイトの開設による他の高校とは異なった視点で情報発信を引き続き行い、交通マナー指導の徹底や、同窓会と連携した卒業生のネットワーク構築を通じて、地域に愛され選ばれる学校づくりを推進していく。 ○令和7年度 の取組の達成状況と学校評価および令和8年度の学校経営計画策定についての質疑・意見交換および承認について ・本校の特色について、「探究活動」を軸とした進路指導について、「親身な指導」こそが本校の最大の売りであり、当たり前のことを当たり前にする指導を継続してほしいとの助言があった。質疑・意見交換の結果、全委員の承認を得られた。 ○教員の授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議について ・0 件より審議事項なし
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6 年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現のための魅力的な学校づくり	（１）生徒の可能性を引き出す教育課程の編成に重点を置き、効果的な情報発信を推進する。 （２）「わかる授業」「確かな学力」の定着を踏まえて「進路結果に直接結びつく授業」に取り組む。	①令和7年度入学生から授業時数を週 30 時間に改編。授業内容を充実させるとともに、選択科目群の精選と生徒のニーズの応じた教育課程とする。また、令和7年度も引き続き将来構想検討委員会において、新しいコース制度の設置に向けた検討も継続する。 ②2 年次に可能な科目選択を広げ、本校の特色でもある「生徒の可能性」を活かした「多様な進路先」につなげる。 ①全面的な「授業改善」を学校全体で推進する。 ア 工夫された授業と授業中での 1 人 1 台端末活用の積極的な推進。 イ 生徒参加型の探究的な学びを全教科・科目で実践する。 ・授業改善については、生徒授業アンケート結果をベースに校長による年 1 回以上の授業見学を徹底し、改善が必要とされる教員への指導・助言することで意識づけを強化する。 ウ 学習評価の改善に向けた、教職員全員による積極的な取組み。 ・令和7年度 1 学期実施の考査を学年末に絞り、成績を観点別学習状況の評価を重視した大幅な授業改善を行う。必要な教科・科目は単元テストを実施する。 エ 「わかる授業」に向けた「授業力向上チーム」の活発な活動。 ・令和6 年度「育成支援チーム」の継続事業として、校内研修のテーマを「わかる授業」とし、「育てたい生徒像」の完成に向けた授業改善のための教職員研修を年 3 回以上開催する。（R 6：年 4 回開催） ②学びの UD（ユニバーサルデザイン）を参考に、「生徒たちの思い」と「教師の思い」に「ずれ」が無いよう「生きる力」の育成をめざす。 ア 環境づくり・・・意欲や成長を促す言葉かけ、指示の伝え方、ルール作り、掲示等の配慮 イ 人間関係作り・・・共感的な人間関係作りへの配慮 ウ 授業づくり・・・授業の流れ・形態、個別の指導、板書・教材及び教具の工夫、教室の配置等の配慮 ①進路指導を「キャリアクリエイト」（生徒一人ひとりの将来を想像する）と位置づける。 ②旧進路指導部を「キャリアサポート部」として再編。進学・就職指導係と探究係が多方面から支え、生徒の個性を最大に伸ばせる指導体制を構築する。 ・令和7 年度から進路指導方針を「設定目標」「進捗状況」「達成状況」に分けて校内で共有する。 ③定期考査実施内容の改善や外部教育機関による診断テストを活用するとともに、生徒が主体的に自分自身の進路開拓をさせる指導を実践する。 ・外部診断テストのデータ活用や自宅学習等の授業時間以外の効率的な学習方法を指導する。	①学校教育自己診断（生徒）項目：全般（この学校には、他の学校にない特色がある）の肯定感 70%以上の肯定感をめざす。[R 6：60.8%] ②学校教育自己診断（生徒）項目：教育課程の肯定感平均 90%以上の維持をめざす。[R 6：89.4%] ①ア・イ 学校教育自己診断（生徒）質問「教え方に工夫があり、独自の教材や PC 等情報機器を活用し、画像や動画で分かりやすく説明してくれている。」の肯定感 85%以上の肯定感をめざす。[R 6：80.3%] ウ 学校教育自己診断（生徒）質問「学習の努力を認めてくれていて、評価についても納得できる」の肯定感令和 9 年度 80%以上の肯定感をめざす。 [R 6：85.1%]エ 学校教育自己診断（生徒）質問「授業はわかりやすく興味を持たせてくれている」の肯定感 80%以上の肯定感をめざす。[R 6：71.8%] ②学校教育自己診断（生徒）質問「先生は生徒の意見をよく聞いてくれる」肯定感 90%以上の肯定感をめざす。[R 6：79.6%]	①生徒アンケート結果 67.6%（○）6.8 ポイント上昇したが、目標の 70%以上に向けて令和 8 年度入学生以降の最新教育課程後の特色を令和 10 年度入学者選抜へ反映できるようにアピールする。 ②生徒アンケート結果 92.9%（○）3.5 ポイント上昇となり、生徒の進路指導満足度にもつながる結果となった。 ①ア・イ 生徒アンケート結果 86.8%（○）6.5 ポイント上昇の陰には、授業（座学・実技共に）教材研究・情報機器（PC・タブレット）の使用率が非常に上がっている。ほぼ、全ての教員が何らかの形で授業中に情報機器を使用し、「わかる授業」への効果が表れ始めている。 ウ 1 学期中間考査を廃止する共に生徒の学習評価を重視した授業改善の結果、生徒の肯定感が 91.7%（◎）6.6 ポイント上昇。考査に頼らない学習評価の定着を今後も検証し、全教科の学習指導・評価の改善に繋げる。 エ 生徒アンケート結果は 79.9%（○）9.9 ポイント上昇となったが、興味・関心を持たせるための学習への取組み方について今後も改善を重ねる。教職員研修の内容を教育センター「パッケージ研修」支援事業に切り替え、10 年経験者研修者を中心としたメンバーで年 4 回開催できた。（○） ②生徒アンケート結果は 85.1%（○）5.5 ポイント上昇。目標は達成できなかったが、授業アンケート結果：項目（授業分析）「先生は生徒の意見や要望を取りれ、授業改善に生かしている」が 3.42[R 6 比較 0.1]上昇している。ア、イ、ウの働きかけが、毎日の授業を通じて生徒に響いていると考えられる。 ①について、校内及び生徒・保護者へも理解が進んでいる。保護者の授業見学者数も増加傾向にある。 ②生徒アンケート結果は 97.4%（◎）5.4 ポイント上昇。探究活動として、自分の将来をしっかり見据えるための学習活動が定着し始めている。 ③生徒アンケート結果は 95.1%（◎）5.3 ポイント上昇。進路行事の見直しや外部教育機関による実力診断テストの事前準備・事後検証等の手厚い取組みの成果が表れている。また、外部講師による分野別説明会や来年度参加の職業体験セミナー等「職業観」を早い段階から意識づける指導に改善を図る。
2 豊かな	（１）公共心と規律性を備えた金岡の生徒を育てる取組みの重点項目と帰属意識	①取組みの重点項目：ア 授業規律 イ 欠席・遅刻指導 ウ 服装・頭髮指導 エ あいさつの励行	①学校教育自己診断（生徒）項目：生徒会活動の肯定感平均 令和 9 年度 85%以上をめざす。[R 6：75.5%]	①生徒アンケート結果は 77.2%（○）1.7 ポイント上昇したが、部活動の積極的な参加が 18.6 ポイント下降したことが課題と思われる。

心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する	の向上及び地域連携・地域貢献における生徒の自己有用感、自己効力感の育成	②クラス活動の活性化及び、生徒会活動などの自主活動における学校行事の企画・運営を充実させる。	②③探究・HR 活動を通じて、生徒の活動状況を評価する。	②今年度から文化祭の充実に向け、入場制限を大幅に緩和し、地元中学生が参加しやすい条件へ改善することにより、生徒が主体的に運営に取り組む姿が見られた。（○）。
	（２）人権教育推進の更なる充実	③積極的な部活動への参加と幼、保、小及び中の各学校園や、自治体関係機関、地域商店街などと連携し生徒会活動を通じ地域貢献を推進する。	①学校教育自己診断（生徒）項目：人権教育の肯定感平均 90％以上をめざす。[R 6：89.7%]	③吹奏楽部、美術部、書道部及びボランティア部が地域商業施設や関係機関と連携した活動を実施した（○）。
3 総合的な探究の時間の効果的な推進	（３）教育相談、SC、SSW、生徒支援及びいじめ防止対策委員会活動の充実	①取組みの重点項目：ア 障がい者理解 イ 同和問題 ウ 在日外国人問題 エ 拉致被害者問題 オ 人権教育推進委員会組織の更新	①令和 7 年度から新分掌を開始させ、指導・運用面や新たな課題に向けた解決に向けて取り組む。	①生徒アンケート結果は 93.3％（○）3.6 ポイント上昇。今年度は人権講演会に落語家を招へいし「死生観」について講話いただいた。
		①校内分掌を大幅に再編し、生徒指導部に生活指導係と生徒支援係を設置する。 ア 生活指導面からの気付きをタイムリーに生徒支援につなげる。 ・生徒支援係に養護教諭を割り当て、教育相談委員会との連携や学校全体への情報共有を迅速に行い、課題解決に向けた組織的な動きを取ることができるようにする。 ②学習支援活動の活性化と的確な情報共有体制の確立 ア 教育相談委員会及び SSW 委員会の位置づけを明確化。 ・学年主任を中心に生徒情報を瞬時に委員会へ共有させる。 イ 不登校生徒や長期欠席生徒への対応を校内に周知徹底させる等の有効的な活用を図る。 ・教務内規の改定とともに、遠隔授業や通信教育の課程を参考とした学力保障及び単位の認定を重視する。 ③いじめ防止対策委員会の充実した活動 ア いじめの防止・早期発見から対応に至るまでの迅速かつ円滑な組織的対応の徹底を図る。 ・いじめに関する全ての情報を全教職員で速やかに共有できる体制と、解決に向けた協力体制の構築を更新する。	②多様化する生徒対応に合わせた学校体制構築 ア 学校教育自己診断（生徒）項目：教育相談の肯定感 90％以上維持する。[R 6：82.1%]	①改定された生徒指導提要への理解は深まった。 ア についても、生徒指導室を新設し遅刻指導の改善等の情報交換・対応が早くなったが、カウンセリングマインドを持てている教員の増加が課題となった。（○）
4 地域に愛され信頼される学校改革	（１）総合的な探究の時間を抜本的に見直し生徒のキャリアに直結する活動内容へ改編する。	ア 校訓「克己」の志を持った地域社会に貢献できる生徒の育成。 イ 自らに厳しくも他者には優しく思いやれる社会人を育成するための資質と能力を養う。 ・授業評価や生徒指導の考え方に探究的な思考を働かせ、探究＝キャリア教育であることの認識を学校全体で高める。	ア・イ 学校教育自己診（生徒）質問「自分は自分の良いところを将来の夢や目標に向け、学校等で生かそうと努力している。」肯定感 90％以上をめざす。[R 6：88.0%]	②生徒アンケート結果は 93.4％（○）0.3 ポイント上昇したが、いじめの早期発見・認定から対応までをスピード感を持って対応できるよう、今後とも全教職員で取組む体制づくりに尽力する。
	（２）国際交流活動の拡充を図る。	ア オーストラリア語学研修を本校単独開催する。 ・異文化理解のための研修として位置づける。また、希望する生徒全員を参加させる。 イ 外部機関との連携を深め、国際理解教育の推進を図る。	ア 学校教育自己診断（生徒）項目：国際交流の肯定感平均を毎年 80％以上に維持する。[R 6：76.1%]参加者全員に語学研修後の体験発表プレゼンをさせる。	ア 生徒アンケート結果は 85.1％（○）2.9 ポイント下降したが、授業アンケートの結果では「生徒意識」の項目で上昇が見られた。また「授業に積極的に取り組んでいる」と回答する生徒が大幅に増加し、授業評価や生徒指導の改善の効果が波及していると考えられる。
	（３）読書活動を通して他者への働きかけ力を高める。	ア ビブリオバトル等の生徒参加型読書活動を推進し、総合的な探究の時間にも効果的に取り入れる。	ア 校内発表会を実施し、学校代表者には、大阪府大会に出場してもらう。	ア 大会出場は今回希望者が無かった。（△）校内の数か所に「移動図書館」として、気軽に図書が手に取れる環境整備を推進した。
	（１）生活指導・生徒支援の確立。	ア 朝のホームルームを実施し、生徒の健康状態や変容を把握するとともに生活リズム（生活規律）と時間を大切に扱う態度（学習規律）を養わせる。 ・教員による生徒観察を日常的に行い、生徒が安心して学校生活を送れるための配慮をする。 イ 時差登校等による自転車・交通事故ゼロに向けた取組み ・学校前府道の交通量増加に伴い、生徒の安全確保が困難な状況である。近隣警察署との連携も深め、生徒の安全に最大の努力をする。	ア 学校教育自己診断（生徒）項目：生徒指導の肯定感平均を毎年 90％以上に維持する。[R 6：88.3%]	ア 生徒アンケート結果は 84.7％（○）3.7 ポイント下降となったが、交通マナーの意識向上は高まってきている。
	（２）学校経営体制の強化	ア 「学校経営方針」の発信を定期的に行い、校長のリーダーシップのもと全教職員が学校運営に携わる活動を推奨する。	イ R 6：41 件 ・PTA と協力し、自転車マナー指導週間の年 1 回以上実施	イ R 7：20 件（○）21 件減 PTA の協力と地元警察署との連携により生徒の安全確保に努めた。また、次年度から自転車運転者へも交通違反による反則金制度も導入されることを踏まえ、自転車左側通行を遵守する指導を強化し始めている。
			ア 職員会議において、校長のビジョンを伝えるための資料を共有する。	ア 3 か月をめどに、今後の教育活動方針を職員会議で提示した。（○）、全教職員が学校力として改善に図る機運を示すことができた。

	（３）開かれた学校づくり	ア 学校運営協議会において、各委員から積極的に意見収集をするとともに、学校教育活動へ迅速に対応する。 イ 中高連携の新規事業として「書写・書道」の出前授業を近隣中学校と連携して行う。 ウ 学校 HP の更新や広報活動の強化に取り組むと同時に令和８年度入学生向けの制服デザインを改定し、新しい学校のイメージとして位置付ける。	ア 協議会委員に授業（校内）見学や会議資料を事前に各委員へ示し、協議会での活発な意見収集に努める。・近隣中学校との確かな連携につなげる。 ・学校全体で広報活動に注力するよう働きかける。	ア 第２回運営協議会議を初めて土曜日に開催し、授業見学・施設見学を充実させた。（○） イ 今年度から「書写・書道」の出前授業を近隣中学校１年生８クラスを対象とし年間 24 時間（年３回）実施した。（○）中学校側からは大変評価をいただいている。次年度も継続を計画している。 ウ 学校ホームページ特設サイトの新設により、学校説明会参加者数が激増した。（○）
5 教員の働き方改革の持続的な継続	（１）府立学校において、教職員の長時間勤務の軽減に向けた働き方改革の促進としての取組み （２）時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定 （３）部活動方針の遵守による教員の時間外在校等時間の縮減	ア 毎週月曜日に設定している全校一斉退庁日及び各部活動で設定しているノークラブデー実施の徹底。 イ 日頃の業務体制を教職員各自で見直すとともに、安全衛生委員会からの発信など組織的改革に努める。 ア アラートメールにより個人への通知とともに、教職員全体へ校内滞在時間超過時間を正確に把握させ時間外勤務の縮減に努めさせる。 イ 学校閉庁日を週休日等と併せて設定し、教職員が長期に休暇を取れるような工夫をする。 ア 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適正な指導・運営に係る体制の構築を行うことで、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。	ア 月の時間外勤務時間 80 時間超の延べ人数 10 人以下をめざす。[R6：6 人 ２月時点] ・ストレスチェック結果の検証データ等を共有し、日頃の業務整理・改善に努めるよう働きかける。 ・滞在時間が長くなりがちな教職員へは管理職からの指導助言を徹底する。 ・学校休業日等、年間行事予定の見直しを継続する。 ・校内外での部活動内容を見直し、本校で定める部活動方針の徹底を図る。	ア 時間外勤務時間 80 時間越えが 6 人（２月）で目標へは近い数字となっているが、次年度ゼロめざした取組みを推進する。（○） ア 管理職による指導・助言の徹底を図り、教職員の業務量全体を見直す働きかけをする。（○） イ 学校行事全体を早期に計画し、関係分掌との連携のもと、重複する行事・活動の廃止や整理を徹底。（○） ア 主顧問・副顧問の連携・協力を深めさせ、週休日の練習・公式戦等の付添業務の分担がしやすい環境整備。（○）